



◆今号の内容◆

- ・ 2012年度基本方針
- ・ 総会開催のご報告
- ・ 2011年度の主な事業報告と
2012年度の主な事業計画
- ・ イベント案内
- ・ 役員・スタッフ活動記録
- ・ 会員・寄付者紹介
- ・ 賛助会員募集・ご寄付のお願い

CODE Letter

2012.8.15 VOL44

(特活)CODE海外災害援助市民センター 発行
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL:078-578-7744 FAX:078-574-0702
E-mail: info@code-jp.org
URL: <http://www.code-jp.org/>
郵便振替: 00930-0-330579

CODE10周年 2012年度基本方針

1995年12月、私たちは「市民とNGOの『防災』国際フォーラム」を開催し、あらゆる表現を用いて、お互いの痛みを共有し、阪神・淡路大震災を忘れないと誓った。しかし、昨年の3.11からは、表現すべき言葉さえ失い、呆然とした。もがきながらも「3.11」と向き合うことだけは忘れなかった。

CODEは未曾有の東日本災害に対して、10年間にわたって繋がりを築き上げてきた海外の被災者やNGOからの支援のメッセージを、被災地NGO協働センターを通じて東日本の被災者のもとへ届けてきた。人と人がつながり、被災者に寄り添っていくことの意味合いを、あらためて深くかみしめた。

CODEが発足して満10年を迎えた。この間に立ち上げた海外の災害に対する救援・支援活動は、前身時代を含めて50回を数える。最近の災害の記録を見ると、日本における災害の発生率が世界でも上位を占めている。世界屈指の災害列島に生きているからこそ、世界の災害に敏感にならざるを得ない。

災害を未然に防ぐことはできなくても、被害を減らすことはできる。「減災」は阪神・淡路大震災以来17年間、私たちが追求してきた理念である。同時に、被災者の自立と復興を支援することによって、厳しい状況から一步一步前へ進もうとする被災者自身の歩みを支えていく自律的復興をめざしてきた。一人ひとりの被災者に向き合い、最後のひとりまで救うという関わり方が可能だとの手応えも感じてきた。

17年前、私たちは震災直後の被災地から、次のような「神戸宣言」を掲げた。

被災地の私たちは、自ら「語りだす」「学ぶ」「つな

がる」「つくる」「決める」という行動を重ね、新しい社会システムを創造していく力を養っていくことから、私たち自身の復興の道を踏み出していくことを、強く呼びかける。

新しい社会システムがまだ十分育っていない中で、新しい巨大災害に遭遇した。大地震、大津波、原発災害というトリプル巨大災害は、私たちに「いのちを大切に」「自然との共生」「人間ひとりでは生きていけない」という17年間大切にしてきた言葉の重みをよみがえらせた。「1.17」から「3.11」への歩みを振り返り、未曾有の災害から立ち上がっていく「3.11」以降の未来へ向けて、あらためてこうしたメッセージを発信したい。

福島原発災害を契機に、「原発に依存しない社会」と「原発のない世界」へ向けて、歴史は動き出した。福島の被災地は21世紀社会と文明に大きな変化をもたらす発信地となる。ふるさとを喪失するかもしれない福島の人たちを見据えて、福島が世界の「フクシマ」として、被災地福島の人たちが人間の暮らしを取り戻すまで被災者に寄り添う。フクシマはまた、新たな海を越えた連帯を呼び起こす。

「1.17」から生まれたCODEが、「3.11」の痛みを共有し、新たな連帯を探る。自然を力でもねじ伏せるのではなく、自然との共生を求めて新たな災害に立ち向かう。

このような目標と課題を「寄り添いからつながりへ——市民の手による世界の被災地復興」への基本に据えたい。

2012年度総会を開催致しました

6月23日(土)、兵庫県民会館にて2012年度総会を開催致しました。正会員18名(うち委任状8名)、オブザーバー1名にご出席いただき、議案である2011年度の事業報告・決算、2012年度の事業計画・予算について審議が行われ、すべて承認されました。主だった報告と計画については本誌に概要を掲載させていただいておりますが、総会資料をご覧になりたい場合はホームページをご参照いただくか、事務局までご連絡下さい。

今後ともみなさまからのご支援・ご協力のほど宜しくお願い致します。

2011年度の主な事業報告と 2012年度の主な事業計画 (総会資料より抜粋・要約)

◆アフガニスタン(2003年～)

【報告】支援先の農家ではぶどうの収量が順調に増加しています。これは、2007年からの3ヶ年実施したJICAの草の根技術協力事業(地域提案型)による研修の学びが活かされ、2003年以来地元協同組合が運営しているマイクロファイナンスによる融資が有効に活用されているためです。一方、これまで重要な市場であったパキスタンへの輸出が政治情勢により実質ストップされ、販売面で打撃を受け生計が改善しないという状況です。2011年度後半には、この対策としていくつかの新規プロジェクトの提案を受け、調整を続けてきました。インド市場の開拓や女性向けの家内産業(刺繍・洋裁)・教育事業などです。

【計画】2012年度はいずれかの新しい事業を実施に移せるよう、現地カウンターパートを通して詳細の打合せを行ってまいります。

◆四川省地震救援プロジェクト(2008年5月～)

【報告】(1)老年活動センター建設: 2010年度に建設が決定した「老年活動センター」は2011年6月に着工、同9月に完成しました。森に囲まれた静かな場所で、駐車スペースなどを含む総面積は約1000平米、センターの築面積は約380平米です。釘を一本も使わない伝統軸組み構法で建てられた木造建築で耐震性も考慮されています。高齢者の語らいの場や地域活動の拠点として使われ、緊急時には避難所としても機能します。

2011年9月には完成式(鍵の引き渡し式)も行われ、CODEの芹田代表や支援者であるコープこうべの秦理事らにも参加いただき、盛大に式典が催されました。これまで見守って下さりありがとうございました。

(2)四川・能登・東北被災地交流会: 金沢大学と共催で、北川県光明村の被災者ら4名を2012年3月23日から31日まで日本に招聘し、東日本大震災の被災者と意見交換、

交流を行いました。4名は、能登半島地震から5年となる25日に金沢大学主催のシンポジウム「能登被災地交流会」、27日には岩手県陸前高田市での「被災地交流会inモビリア」にパネリストとして登壇されました。

【計画】今年度は、完成した「老年活動センター」内部の設備を充実させるとともに、同センター内に設けた「震災展示室」を完成させます。今後は住民の方々自身が運営を行うことを期待しつつ、自立に向けた新たな事業提案があればその都度協議し、支援を検討していきます(例えば、農村滞在型ツーリズム「農家楽」の実施など)。

◆青海省(2010年4月～)

【報告】四川省に滞在中のスタッフ吉椿を2度青海省に派遣し、同省玉樹で最大のNGOのひとつ「江源発展促進会(Snowland Service Group, SSG)」やラブ地域の僧院とネットワークを築いてきました。この僧院は、インドネシアの協力者であるアラフマイアニ・フェイサルさんに紹介していただきました。具体的な支援案として、当初より「ヤク銀行」の可能性を模索してきました。これは被災者に母ヤクを提供し、繁殖してもらうことによって生計を支援するものです。チベット人の文化に根ざし、長く自然環境と共生してきた生業である点にも意義があります。

【計画】2012年度は8月に現地にスタッフを派遣してカウンターパートとの協議を行い、プロジェクトの可能性を再確認しました。



▲避難テントとチベット人の暮らしには欠かせないヤク

◆ハイチ(2010年1月～)

【報告】2010年度末から、ラプレンという地域の被災者が立ち上げたACSISというグループをカウンターパートとし、彼らの提案に基づく「被災者経済再建支援プログラム」を開始しました。これは、貧しい女性を対象に事業再建資金を貸し付け、被災によって途切れた生計手段の立て直しを支援しようとするものです。2011年1月、約128万円(約15,200ドル)を送金し、ACSISが40人の女性にそれぞれ使途指定で300米ドルを貸し付けました。計画では、半年で利子込み360米ドルを返済するというものでしたが、実際は返済できない人が増えているとの報告を受けています。

【計画】2012年度は、上記事業の経過のヒアリングと新たなプロジェクトの決定のため、上半期に理事あるいは事務局から現地派遣を行います。(→8月半ばにハイチ派遣が決定

しました。)

◆インドネシア・ジャワ島(2006年5月～)

【報告】ジャワ島中部地震の被災地支援の発展として、2008年にジョグジャカルタ州にあるナワンガン集落で水道管敷設事業を行いました。その後、住民自ら貧困や若者の都市への流出といった問題にも取り組みはじめたため、CODEは「JICA草の根技術協力事業(支援型)」案件への申請を見据えて住民との話し合い・JICAとの打合せを続けてきました。しかし、いまの暮らしの中でできることからやっていきたいという住民の意志と、集落と密接にかかわって事業をすすめるカウンターパートの不在から申請は行わないことになりました。ただし、集落からの具体的な提案があれば、引き続きCODEは会員への寄付呼びかけや助成金申請など協力を惜しまない旨を伝えています。

なお、神戸学院大学の浅野壽夫教授は、2008年度、2010年度、2011年度に続き、2012年度も授業としてこの集落訪問を予定しておられます。学生たちが、被災地KOBEとジョグジャカルタの支えあい・学びあいを継続する大きな力になってくれています。

【計画】現地地の協力者を通して状況のヒアリングを続け、必要性があり、かつカウンターパートの協力が得られればプロジェクトとして提案します。

◆ムラピ山(2010年12月～)

【報告】上記のジャワ島中部地震以来のカウンターパートであるエコ・プラウトさんや、その友人でアーティストのアラフマイアニ・フェイスルさんから情報収集を行ってきました。アラフマイアニさんから紹介を受けた地元団体「Milas」による被災コミュニティ対象の農業研修をサポートする話を進めていましたが、現地インターネット状況等によるコンタクトの取りづらさから今後のフォローが困難と考え、再度、別の支援策を考え直すこととなりました。

【計画】同被災地にてコミュニティラジオを通じた防災活動を支援している特定非営利活動法人エフエムわいわいに全額を委託することとしました。FMわいわいは、CODE吉富志津代理事が専務理事を努めている神戸の団体です。今後も経過をヒアリングしていきます。

◆東日本大震災(2011年3月～)

【報告】CODEは、東日本大災害発生後いち早く東日本支援を表明し、支援金を集めました。これを、国内災害において連携している被災地NGO協働センターを通して被災地支援に活用してもらうとともに、2011年4月1日から半年間同NGOにスタッフ二人を出向させました。被災地NGO協働センターは「足湯」ボランティアやゾウの形の壁掛けタオル「まけないぞう」づくりを通して被災者に寄り添ってきました(1つ400円のみけないぞうを買って被災地支援ができます。詳しくは同団体:078-574-0701)。

また、四川の報告で述べたように、金沢大学と連携して、

2012年3月末に四川省の被災者ら4名をお招きし、東日本の被災地への訪問と交流を行いました。

【計画】四川と東北の被災者どうしが国境を越えてつながることができました。今後も、必要に応じてこのような交流を企画します。

◆CODEの活動支援基金「CODE AID」

設立準備(2011年10月～)

【報告】CODE10周年を機に、3年以上動いていない複数のプロジェクトの資金合計2158万5235円を一括して、災害時の初動資金をサポートするCODE AID(CODE支援基金)を立ち上げることが2011年10月の理事会で承認されました。【計画】この基金「CODE AID」の設立と認定NPO法人格の取得を目指して準備をすすめてまいります。

その他、国内では前年に引き続き下記の事業を行います。

◆寺子屋セミナー

◆災害情報の発信

◆関係機関とのネットワーク構築 など

イベント案内・募集

CODE10周年記念シンポジウム

「寄り添いからつながりへ」 2013年2月2日(土)

CODEが法人格を取得したのは2002年12月のことでした。皆様に支えられて、今年で10年を迎えることとなります。これまでのご協力に感謝し、さらに次の10年を考える場として、2013年2月2日(土)、兵庫県公館にてシンポジウムを開催いたします。少し先のお話ですが、アフガニスタン、中国、ハイチからのゲストもお招きしますので、ぜひいまからご予定いただければ幸いです。同封のチラシもご参照下さい。

CODE寺子屋セミナー 若者編

「いま、若者へ伝える、17年間の救援思想」

CODE10周年を期に、次世代を担う若者と一緒にKOBEの市民の活動から学ぶ講座「いま、若者へ伝える、17年間の救援思想」を4月から月1回ペースで行っています。事務局長として救援プロジェクトをコーディネートしてきた村井雅清理事が、一つひとつのプロジェクトにおける学びや人々との出会い、そこから築いてきた支援の考え方などをお話します。

今回は9月23日(日)14:00～16:00、CODE事務所にて、「メキシコ・ハリケーン(2002年)／アルジェリア地震(2003年)／イラン・バム地震(2003年)」について学びます。その次は10月21日(日)の予定です。NGO、防災、国際協力などに興味がある若者の皆さん、お気軽にお越し下さい。

(お申込:TEL 078-578-7744 またはメール info@code-jp.orgにて)

役員・スタッフ活動記録 2012/4/1～7/31

- 4/12 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)
“大規模災害における市民社会の連携を考える世銀・JICA
パブリックセミナー”にパネラー出席(村井理事)
- 4/17 CODE理事会
- 4/19 神戸学院大学 防災・社会貢献ユニット講義(吉椿)
- 4/22 CODE寺子屋若者編(第1回)
- 4/25 関西NGO協議会理事会
- 4/25 認定NPO法人説明会に出席(上野、青田さん)
- 4/26 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(齊藤容子さん)
- 5/8 アフリカの角干ばつ対応事業国内支援委員会(村井理事)
- 5/10 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(藤室玲治さん)
国際防災協力体制の構築に関する研究会(村井理事)
- 5/11 関西NGO協議会より「JICA-NGO協議会」の
コーディネーターに関する説明(村井理事)
- 5/13 CODE寺子屋若者編(第2回)
- 5/17 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)
- 5/24 同(村井理事)
- 5/26 関西NGO協議会総会に出席(村井理事)
- 5/31 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(岡本)
- 6/7 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)
- 6/10 CODE寺子屋若者編(第3回)
- 6/13 青海省地震について、NHKの撮影(吉椿)
- 6/14 中国中央電視台(CCTV)撮影取材(吉椿)
- 6/14 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(織田峰彦さん)
- 6/21 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(斎藤富雄さん)
- 6/23 CODE理事会、総会、CODEのタベ
- 6/25 テルネットフォーラム実行委員会(吉椿)
- 6/28 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(松本理事)
- 6/29 第16回安全・安心社会システム研究会(神戸学院大学)
(村井理事)
- 7/1 CODE寺子屋若者編(第4回)
- 7/5 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(本野一郎さん)
- 7/12 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)
- 7/17 神戸大学講義「アジアにおける防災国際協力の推進」
(吉椿)
- 7/17 CODE理事会
- 7/19 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)
- 7/21 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)
- 7/23～8/6 中国青海省地震 第3次派遣(吉椿)
- 7/26 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット講義(村井理事)

ありがとうございます 2012/4/1～7/31

会員・寄付者ご芳名(順不同・敬称略)

◆一般寄付(災害救援への寄付は除く)

土屋芳久、神戸YMCA、田中、鶴飼愛子、黒田達雄、平
田康、柚原里香、(有)トレテス、梅津純子、井上由紀

子、スズキタツロウ、大江良一、齊藤茂樹、大槻輝美、
朝比奈幸

◆会 員

《正会員》

【個人/NPO/NGO】飛田雄一、明石和成、鶴飼卓、JIPP
O、野崎隆一、草地とし子、村上忠孝、鐘森雅之、山崎
達枝

【団体】神戸YMCA、コープこうべ

《賛助会員》

【個人】川中大輔、田村エツ、黒澤晴世、福井敏朗、鶴
飼卓、増田祐代、前畑美智子、兵頭晴喜、黒田達雄、
岡田雅幸、飛田雄一、中山巖、上田耕蔵、井上由紀
子、片岡幸巻、村上宏、武田節子、今井鎮雄、矢守克
也、服部隆(自敬寺)、中村安秀、中村尚司、鈴木有、
瀧川裕康、鶴飼愛子、仲江川徹、難波緑、大槻輝美、
柿沼太郎、増田末知子、宇都幸子、北浦和志、加藤藤
司

【団体】村井新聞店、DT&COMPANY関本

賛助会員募集・ご寄付のお願い

いつもCODEの活動にご支援・ご協力いただきありがとう
ございます。上述のように、CODEは市民が海外の被災地と
支えあい、学びあう場として皆様に参加いただき、支えてい
ただきながら10年目を迎えました。

いま、改めてCODEの活動を支えて下さる賛助会員募集の
呼びかけをさせていただいています。

CODEの復興支援活動は、緊急の時期が過ぎた後から
の2～3年が主な実施期間となります。その間、現地でのプ
ロジェクト費だけでなく、フォローや広報・報告のために事務
局での活動を維持する必要があります。ぜひ会員として継
続的にご協力いただけますようお願い申し上げます。

プロジェクト費用以外の団体活動に役立てさせていただく
「一般寄付(カンパ)」もお願いしております。既に今年も会
員となって下さった皆様、寄付を下された皆様には重ねての
ご案内となり申し訳ございません。誠にありがとうございます。
引き続きどうぞよろしくお願い致します。

☆CODEに対するご意見、アドバイスを何なりとお聞かせ下
さい。E-mail、お電話、お葉書などお待ちしております。

